

(前ページからの続き)

あと、以下の疑問もぶつけました。

問:「空港を持つ自治体として、すべき事できる事は何と捉えているか」

答:「福岡市では空港関連で3部署設けている。①利用促進や移転補償跡地の施設整備、②騒音や環境の対策・地元調整 ③滑走路増設、の3部署で、これらがすべき事だと捉えている。」

問:「移転補償跡地の施設整備、具体的には?」

答:「運動広場・大型店舗・ドッグパーク・農園・菜園・パークゴルフ場など」

随所に参考になったわけですが、一番印象深かったのは、福岡空港に対する市民感情・地元自治体の姿勢でした。同じ都市型空港でも、伊丹とはまた違うと改めて実感。

他の空港の事例も大いに参考にしながらも、伊丹空港について独自の経緯や状況などをしっかり踏まえた上で、今後のあり方を考えていきたいと思えます。



関西若手議員の会at兵庫県篠山市!

私は「**関西若手議員の会**」という団体に所属しています。

その名の通り、関西の若手議員(25歳~45歳)が集まり、勉強や交流をはかる会です。

1月31日、会の勉強会があり、**兵庫県篠山市**まで行ってきました。

テーマは「篠山市の原子力防災の取組」。

講師は、守田敏也氏(篠山市原子力災害対策検討委員会委員・フリーライター)。

篠山市は市長が原子力災害問題に関心をお持ちで、積極的に対策を講じています。講演で聞いた篠山市の取り組みで、印象に残ったものは...

●検討委員会

独自で「篠山市原子力災害対策検討委員会」なるものを設置し、福井県などの原発で事故が起こった際の対策を、綿密に検討しているとのこと。

伊丹では検討会設置の話すら出ておらず、素直に驚きました。

●安定ヨウ素剤の備蓄

「安定ヨウ素剤」とは、事前に内服すると甲状腺内のヨウ素が満たされ、放射線障害の予防になるというもの。つまり、万が一原子力事故が起こった際、急いで飲めば放射線汚染が軽減できるというもの。備蓄や配布をする自治体が出てきています(大飯原発に近い滋賀県では備蓄の方向だとか)。

篠山市では「1錠5円で5万人分。財政的には驚くほど高価ではない。ただ、実際の災害時における配布方法や配布人員の方が課題」とのこと。伊丹では現在備蓄していませんが、備蓄を求める声も伺うところ。篠山市の事例を聞き、単に備蓄しておくだけでは意味がないと再認識。備蓄するにしても、様々な検討が必要です。

●地域サポーター職員

災害時に地域をサポートする職員を、地域ごとにあらかじめ決めておこう。「災害時には、〇〇地区には△△職員が行く」と決まっているわけです。前述のヨウ素剤も、基本的に担当職員が配布するとか。

講師いわく「とにかく意識と知識を高めることから!篠山はだいぶ進んできたように感じます」とのことでした。伊丹でも、まずは意識や知識をいっそう高め、危機管理の充実をはからねばなりません。



~情報はここから~

★ホームページ <http://sawako-aizaki.com>

★ブログ <http://yaplog.jp/sawako-aizaki/> **毎日更新中!**

★ホームページ(携帯版) 右記のQRコードから

★ツイッター <http://twitter.com/#!/aizakisawako>

★活動ニュース バックナンバーは上記HPに。郵送希望はご連絡を

★フェイスブック ★ミクシィ



相崎佐和子

検索

サワコの茶話会

気軽な意見交換の場です。ぜひご参加ください!

~サワコの茶話会 第6回~

〇H26年5月25日(日)

14:00~16:00

〇いたみホール5階 会議室2

〇参加希望は下記までご連絡を

相崎佐和子 プロフィール

- 1973年3月生 ●親和女子高校 ●奈良教育大学 ● 大学院(政治学)
- フリーアナウンサー ●地元ケーブルテレビ(現:ペイコム)アナウンサー
- 第12代兵庫県広報専門員 ●伊丹市公民館事業推進委員会事務局長
- 伊丹市議会議員(現在2期目) ○家族: 夫・長女(小2)・次女(4歳)

発行元: 相崎佐和子

連絡先: 〒664-8503伊丹市千僧1-1
伊丹市議会内

電話: (090) 8528-3870

メール: sawako-aizaki@hcc6.bai.ne.jp